

## 進捗状況の概要（2 ページ以内）

① 大学改革の加速

本学における大学改革の柱は、学長によるリーダーシップを確立すると共に、教学プログラムにおける各学部の自立性と責任とを担保することである。本学は長く工学部のみの単科大学であったが、平成 23 年度の建築学部開設を皮切りに、4 学部が並存する現在の形まで、時代の新しいニーズの対応ができるよう組織改革を進めてきた。と同時に、より先端的な課題に関しては、学部横断的な形で取り組む必要が増してきている。

グローバル人材の育成に取り組むために本学が独自に開発した「ハイブリッド留学」が平成 27 年度に「大学教育再生加速プログラム (AP)」に採択されたことは、学部ごとの個性を生かしつつ連携を深めていくという方向性において、大きな効果があった。具体的には平成 27 年度開設の先進工学部に始まり、他学部も順次クォーター制導入に踏み切り、現在ではクォーター制をベースとする全学的な学事暦が作成される一方、先進工学部や情報学部ではそれと連動したプレリクレイジット制による段階的な学修プログラムが実施されるなど、ハイブリッド留学の拡充と歩調を合わせる形で学生たちがグローバル社会にふさわしい新たな教育を受けるための環境整備を進めることができた。

その結果として、令和元年度には「高度な工学知識を兼ね備えた “エンジニア・パイロット”」の養成を目的に先進工学部機械理工学科航空理工学専攻を新設、ハイブリッド留学期間を活用して学生が国内外の空で操縦訓練を行い、国際標準の操縦ライセンスを取得できるプログラムを構築することができた。

② 事業の実施体制

実施責任者である学長のもと、プログラムの実施は事業推進担当者（教育開発センター所長）の下で、グローバル事業部と各学部（先進工学部、工学部、情報学部、建築学部、教育推進機構）が連携して実施している。事業管理は学長企画室長を責任者として、学長企画室が担当している。

補助事業の中心となる取り組みであるハイブリッド留学の計画段階においては、事業担当者を委員長とするハイブリッド留学運営委員会によって実施計画が審議され、学部間での効果検証や意見交換も行うことが可能となった。

実施段階では、各学部とも派遣教員が固定化されないような工夫を行っている他、職員においても現地に派遣する SD 研修を実施するなど、本事業に対する理解は浸透し深まっている。

年度末には、学内教職員・外部評価委員を構成員とする「評価委員会」を開催し、年度内プログラムの統括・点検の報告を行った。募集からプログラム自体、今後の分析などについても多くの貴重な意見を外部委員からもいただき、PDCA サイクルのチェック機能として役割を果たした。

③ 事業の実実施計画・継続性

平成 30 年度よりハイブリッド留学運営委員会を発足させ、「ハイブリッド留学規程」「ハイブリッド留学運営委員会規程」など、円滑なプログラム運営を持続させる基盤を整備した。これにより、前年度までの事業実施結果を踏まえ、事業推進担当者が事業計画の策定やプログラムに対する修正を立案し、事業担当者が委員長を務める「ハイブリッド留学運営委員会」にて定期的に審議される体制となっている。

資金面では、補助期間終了後を見据えて、自己資金で実施継続できるよう同規模の予算を確保する見込みである。本事業はカリキュラム面からも、広報面からも、本学になくてはならない「独自

の取組・特色」として根付き始めており、補助期間終了後であってもプログラム維持が学内各方面から期待されているためである。

#### ④ 事業成果の普及

本学では新たな留学スタイルを提案した「ハイブリッド留学」のパンフレットを作成するのみならず、オープンキャンパスや入学前教育スクーリングなど様々な機会を利用して紹介ブースを設置、高校生や保護者に対しても本事業の特色と成果を発信してきた。結果として「ハイブリッド留学」の認知度は高まり、それを入学動機の一つとする学生も増えてきている。

また、ハイブリッド留学参加中から学生自らがその成果を確認できるよう学修ポートフォリオを作成させるのみならず、それを就職活動でどう生かすかといった観点も交えた事後指導を行うなどのキャリア支援プログラムを組み込んだことで、卒業生の受け入れ先である企業側の関心も高い。蛇足ながら、令和元年6月に東京ビックサイトで開催された「キャリア教育・就職ガイダンス」では新たに設けられた大学によるポスターセッションに参加、平成30年度中に分析を行った本事業の成果発信を軸としてグローバル人材育成を目指す本学のインターンシップ戦略構想を示し、多くの参観者を得ることができたのも、本事業の推進によって本学がグローバル人材育成に傾注していることを企業等に広く知られるようになったことが大きいと考えている。

#### ⑤ 選定されたテーマの取組を中核にした総合的な大学教育改革の取組

テーマIVでの取り組みは、もとより、テーマI～Vにおける取り組みを参考にし、質保証に伴った大学教育を実現するため、平成30年度には、教育開発センターを中心に全学的にナンバリングを実施し、各カリキュラムにおける科目のルーブリックの作成を行った。今後の質保証における可視化に向けて取り組んでいく材料となる。